【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】令和3年5月13日(2021.5.13)

【公表番号】特表2020-517020(P2020-517020A)
【公表日】令和2年6月11日(2020.6.11)
【年通号数】公開・登録公報2020-023
【出願番号】特願2019-555890(P2019-555890)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｑ　50/04　　(2012.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｑ　50/04

【手続補正書】
【提出日】令和3年4月1日(2021.4.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の有害生物監視装置であって、前記有害生物監視装置の各々は、現場に配置され、前記現場における有害生物の検知に反応して信号を生成するよう構成される、複数の有害生物監視装置と、
前記有害生物監視装置から離れて配置され、前記有害生物監視装置から前記生成された信号を受信するために前記有害生物監視装置と通信するよう構成されるコンピュータ装置であって、前記有害生物監視装置からの前記信号は、実際の現場データを含み、前記コンピュータ装置は、プロセッサと、実行可能な命令を記憶するメモリとを含み、前記命令は少なくとも、
前記現場の監視のために提案される前記有害生物監視装置の量と、前記現場周辺における各々の前記有害生物監視装置の設置位置とを決定するために、環境要因データと歴史要因データとを分析することであって、前記環境要因データは、有害生物個体群の増加を助長する前記現場および前記現場周辺の環境要因に関連し、前記歴史要因データは、前記現場における過去の有害生物の個体群を示す要因に関連する、前記分析することと、
前記分析に従って、前記現場周辺への前記有害生物防除監視装置の配備を指示することと、
を前記プロセッサによる実行に応えて前記コンピュータ装置に行わせる、コンピュータ装置と、
を含む有害生物監視防除システム。
【請求項２】
現場における有害生物監視防除方法であって、
前記現場の監視のために提案される有害生物監視装置の量と、前記現場周辺における各々の前記有害生物監視装置の設置位置とを決定するために、環境要因データと歴史要因データとを分析することであって、前記環境要因データは、有害生物個体群の増加を助長する前記現場および前記現場周辺の環境要因に関連し、前記歴史要因データは、前記現場における過去の有害生物の個体群を示す要因に関連する、前記分析することと、
前記分析に従って、前記現場周辺へ前記有害生物防除監視装置を配備することと、
を含む方法。
【請求項３】

現場における有害生物防除監視および防除システムのためのコンピュータ可読記憶媒体であって、前記コンピュータ可読記憶媒体は、非一時的であり、少なくとも、
前記現場の監視のために提案される前記有害生物監視装置の量と、前記現場周辺における各々の前記有害生物監視装置の設置位置とを決定するために、環境要因データと歴史要因データとを分析することであって、前記環境要因データは、有害生物個体群の増加を助長する前記現場および前記現場周辺の環境要因に関連し、前記歴史要因データは、前記現場における過去の有害生物の個体群を示す要因に関連する、前記分析することと、
前記分析に従って、前記現場周辺への前記有害生物防除監視装置を配備することと、
をプロセッサによる実行に応えて前記装置に行わせる、前記コンピュータ可読記憶媒体内に記憶されたコンピュータ可読プログラムコードを有する、コンピュータ可読記憶媒体。

【請求項４】
１以上の駆除剤供給ユニットであって、各駆除剤供給ユニットは、希釈剤を収納するよう構成されるタンクと、駆除剤物質を収納するよう構成される駆除剤モジュールと、データを送信する送信モジュールと、を含む１以上の駆除剤供給ユニットと、
前記駆除剤供給ユニットから離れて配置され、前記駆除剤供給ユニットからそれぞれの送信モジュールを介して駆除剤物質使用データを受信するよう構成されるコンピュータ装置であって、前記駆除剤物質使用データは、前記希釈剤中に一定濃度の前記駆除剤物質を含む有害生物処置剤を調合するために、いずれかの前記駆除剤供給ユニットの前記駆除剤モジュールから供給される前記駆除剤物質の供給量または供給率を含み、前記有害生物処置剤は、前記現場で有害生物に処置を施すために前記駆除剤供給ユニットから供給され、前記コンピュータ装置は、プロセッサと、少なくとも駆除剤物質の使用量を決定し監視することを、前記プロセッサによる実行に応えて前記コンピュータ装置に行わせる、実行可能な命令を記憶するメモリとを含む、コンピュータ装置と、
を含む駆除剤適用システム。
【請求項５】
現場における駆除剤適用方法であって、
プロセッサと、実行可能な命令を記憶する非一時的メモリと、を含むコンピュータ装置において、離れて配置される１以上の駆除剤供給ユニットから、駆除剤物質使用データを受け取ることであって、各駆除剤供給ユニットは、希釈剤を収納するよう構成されるタンクと、駆除剤物質を収納するよう構成される駆除剤モジュールと、前記データを送信する送信モジュールとを含む、前記受け取ることと、
前記コンピュータ装置で前記駆除剤物質使用データを分析することにより前記駆除剤物質の使用量を決定し監視することであって、前記駆除剤物質使用データは、前記希釈剤中に一定濃度の前記駆除剤物質を含む有害生物処置剤を調合するために、いずれかの前記駆除剤供給ユニットの前記駆除剤モジュールから供給される前記駆除剤物質の供給量または供給率を含み、前記有害生物処置剤は、前記現場で有害生物に処置を施すために前記駆除剤供給ユニットから供給される、前記決定し監視することと、
を含む方法。
【請求項６】
現場における駆除剤適用のためのコンピュータ可読記憶媒体であって、前記コンピュータ可読記憶媒体は、非一時的であり、少なくとも、
自らと関連する前記非一時的コンピュータ可読記憶媒体を有するコンピュータ装置において、離れて配置される１以上の駆除剤供給ユニットから、データを受信することであって、各駆除剤供給ユニットは、希釈剤を収納するよう構成されるタンクと、駆除剤物質を収納するよう構成される駆除剤モジュールと、データを送信する送信モジュールとを含む、前記受信することと、
前記コンピュータ装置で前記データを分析することにより前記駆除剤物質の使用量を監視することとであって、前記データは、前記希釈剤中に一定濃度の前記駆除剤物質を含む有害生物処置剤を調合するために、いずれかの前記駆除剤供給ユニットの前記駆除剤モ

ジュールから供給される前記駆除剤物質の供給量または供給率を含み、前記有害生物処置剤は、前記現場で有害生物に処置を施すために前記駆除剤供給ユニットから供給される、前記監視することと、

をプロセッサによる実行に応えて前記装置に行わせる、内部に記憶されたコンピュータ可読プログラムコードを有する、コンピュータ可読記憶媒体。